

教員養成系学部における技術室の取り組み

～ 師範力育成を目指した学生支援～

西本 彰文

熊本大学教育学部技術室

1. はじめに

中学校技術科教員を目指す学生（院生含む）は、教科内容を熟知することはもとより、生徒の前で師範する能力が必要である。しかし、近年の教員養成における教職科目重視の教育施策の流れの中で、教科専門科目の時間数減等により、その能力は充分身に付いているとは言い難い。また、平成 20 年度より、大学院に引き続き学部においても FD 活動が義務付けられ、更なる FD 活動の実質化が求められており、従来は教員が中心であった FD 活動への技術職員を含めた職員の積極的な参画が必要である。

そこで、本報告では、中学校技術科教員を目指す学生に最低限必要な能力としての「師範力」の育成に着目しつつ、教育学部技術室として行っている学生を支援する活動について報告する。

2. 教育学部技術室概要

教育学部技術室は、教育学部における技術に関する専門的業務を円滑かつ効率的に、処理するために平成 3 年 9 月に設置された。学部長を技術室長とし、技術専門職員 1 名、技術職員 2 名で構成されている。業務は主に、教育研究補助が主であるが、後述するように学部の委員会や GP プロジェクト及び、衛生管理業務等にも参画している。

3. 師範力の定義

中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」において、「教員に対する尊敬と信頼を確立するためには、まず教員自身が自信と誇りを持って教育活動に当たることが重要である」¹⁾としている。また、Merrill は現実におこりそうな課題を中心とし、課題・活性化・例示・応用・統合の 5 段階の教授方略²⁾を提唱しているが、例示段階(Demonstration)においては「やってみせる」ことが重要としている。これらのことから、中学校技術科教員には自信を持って、生徒の前で師範できる能力が必要であると考え、教科指導に関する実践的な指導力の一つとして、「師範力」の育成を目指している。「師範力」とは、「一斉提示能力」と「個別対応能力」の二つの能力である。一斉提示能力とは、生徒の前で、実際に師範演技を行う能力である。また、個別対応能力とは、生徒の製作品の失敗等の状況に応じて実際に修復できる能力であると定義した。これらは、実習教科における実践的指導力の一部として欠かせない能力である。例えば、教師が、生徒の前で長いかな屑を出す模範作業や、生徒の釘打ちの失敗を教師が、手早くフォローすること等である。

4. 師範力の育成を目指した学生への支援

師範力の育成を目指した学生への支援の取り組みを表に示す。木工スキルアップ講座及び、地域のものづくり教室（年 2, 3 回程度）での講師体験等の場の設定を行った。また、次図に地域のものづくり教室での様子を示す。なお、1 年次の基礎実習では、地域のものづくり教室にも採用している題材（スパイスラック）の製作を行った。本活動は外部と連携したカリキュラム外の活動であるが、カリキュラム内の活動として、木材加工実習等において、師範力育成を意図した教育実践³⁾を行った。

表 師範力の育成を目指した学生への支援の取り組み

取り組み例	実施内容	目当て
木工スキルアップ講座	元職業訓練校教員による指導の下、木工の基礎から応用まで実践的に学ぶ	卒業生を含む学生・院生のスキルアップを目指す。木工の基礎から少人数で教員採用試験の実技試験（2次）対策講座を兼ねる。
くまもとのものづくりフェア	園児・児童を対象に主に木材（県産材）で製作できるものづくり体験教室の講師体験	学生・院生が現職の中学校教員と協働してものづくり体験活動（講師体験）を行う。題材の一部に講義で実際に学生が製作したスパイスラックを用いる
若手教員および、学部生・院生を対象とした勉強会	各自の持ち寄り方式により年間指導計画の作成、定期試験問題作成に関する検討会、製作題材・教材教具の紹介、評価法の検討、日頃の指導に関する情報交換等	現場での課題等を学生と共有し実際の課題を中心に検討する。また、Webによるコミュニティを中心に教材、指導案、製作題材等の共有及び、改善を行っている。
不登校児童生徒を対象としたものづくり教室	不登校児童生徒を対象としたものづくり教室の講師体験	熊本市フレンドリ教室において、ものづくりを通して、不登校児童生徒の理解を図る教育体験活動

5. 学部での取り組み

技術室では、学部全体に関わる活動を行っている。主な活動としては、情報処理委員会及び GP への参画である。情報処理委員会ではセキュリティ啓発活動や学部内における PC 学習環境の整備、ネットワーク及びサーバー(CMS, LMS, WWW, mail)の管理等を行っている。また、教員養成 GP「不登校の改善・解決に資する教育力の養成」においては、ネット



図 ものづくり教室の様子

ワーク支援を主に担当し LMS の構築・管理を行い、現代 GP「el (エル) ころころ学習プログラムの開発」では、システム構築・運用、広報及び e-Learning 教材の開発等幅広く参画を行っている。

6. おわりに

本報告では、教育学部技術室の取り組みについて報告を行った。師範力の育成を目指した取り組みでは、学部教員と連携し、中学校技術科教員を目指す学生に多くの教育体験活動の場を提供するとともに、実践的指導力の一部である、師範力の育成を試みた。木材加工分野において、鋸挽き・鉋がけといった技能は一朝一夕に身につくものではないが、短期間で効率よく身につけさせるための指導法の工夫が必要であり、さらにカリキュラム外の場を積極的に利用する必要がある。このように本取り組みは、教員・技術職員・TA が協働して FD 活動に取り組む意味で画期的である。

参考文献

- 1) 文部科学省：中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」，2006
- 2) M. David Merrill：First Principles of Instruction, 2002
- 3) 西本彰文：中学校技術科、木材加工領域における到達評価の検討，熊大工学部技術部報告会講演集